

流域治水ロゴマークの募集について(再)

1. 流域治水とは

流域のあらゆる関係者が協働する

川を流れる水の源は、川の上に降った雨だけではありません。大地に降った雨も、地表を流れたり地中に染みこみながら、川に流れ込みます。この雨が川に入ってくる範囲を「流域」と呼びます。

これまでの治水対策は河川管理者による河川区域等の整備が主体でした。しかし、昨今の気候変動による水災害リスクの増加によって、これまでの河川整備等だけの治水対策だけでは流域を洪水から守り切ることができません。

だからこそ、これからの治水対策は河川だけでなく私たちが生活する大地にも目を向け、流域に関わるあらゆる関係者（国・県・市町村・企業・住民等）が協働して対策を進めていく必要があります。それが「流域治水」です。



2. ロゴマーク募集の背景

取り組みの主体を広げる（自分事化）

流域に関わるあらゆる関係者が協働して対策を進めていくためには、より多くの人々が水災害のリスクを認識して水災害に備え、その取り組みの視野が地域に、そして流域に広がっていくことが必要です。

そして、水災害の取り組みの主体が、公的機関だけでなく、一人一人の個人、そして企業・団体へと広がっていくことが重要です。

個人、企業・団体に流域治水の取り組みを広げていくには、それが自分のこととして認知され、行動に向けて意識が深まる、「自分事化」されることが課題となっています。

3. ロゴマークの位置づけ

取り組みの象徴、周知のツールとして

水災害の自分事化を推進し、その取り組みの視野を流域に広げ、流域治水を国民運動としていくべく、その象徴となるロゴマークを作成し、様々な広報媒体に掲載して周知を図っていくことを想定しています。

そのため、説明資料、パンフレットやポスターなど紙媒体のみならず、ウェブサイトやSNSでの活用など、デジタル媒体においても活用しやすいものを作成し、国民間で意識共有を図っていきたいと考えています。

4. ロゴマーク作成上のポイント

コンセプトを伝える（例）

気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化が懸念される中、流域のあらゆる関係者が協働して、様々な施策を総動員し水害対策を行う「流域治水」の重要性を表現した作品を募集いたします。ロゴマーク作成上のコンセプトとしては下記のようなものが想定されます。

（例）

- ・協働を表現
- ・流域の一体感を表現
- ・地域の、社会の安全安心を表現
- ・社会の豊かさ、明るさを表現
- ・「流域治水」の文字をデフォルメなど

※具体的な描写を求めるものではなく、抽象性が高い場合でもコンセプトがイメージできるものを歓迎いたします。

デザイン上の留意事項

下図の留意事項をご確認の上、応募いただきますようお願いいたします。



マークの部分が2cm程度の大きさでも十分に視認可能なシンプルなもの

①マークと②文字部分の組み合わせで作成。カラーで作成（色数不問：1色で印刷した場合にも十分視認できるものとなるよう留意）

※ただし、流域治水の文字をデフォルメしたマークを作成する場合、文字部分は不要です

5. 選定にあたっての考え方

流域治水のコンセプトを表出しているか、独創性や美しさに加えて、モノクロプリント時に視認性が高いか、レイアウト上のおさまりなど、ロゴとしての使いやすさを選定にあたって重視いたします。

応募方法など詳しい内容は募集要項をご覧ください。